

はじめに

千葉県では、現在、全国2番目の増加率で急速に高齢化が進んでおり、今後、要介護高齢者も急増することが予測されております。現在は県民の約5人に1人が高齢者ですが、平成27年には約4人に1人となる見込みであり、一人暮らし高齢者、夫婦のみの高齢者世帯も増加することが見込まれます。

高齢者の多くは介護が必要になっても住み慣れた自宅での生活を希望していますが、その一方で、高齢者事故の多くは自宅内で発生しています。

高齢者等の住み慣れた地域での生活を支えていくためにも、また、介護予防のためにも、バリアフリー改修等の必要性が高まると考えられますが、住宅改修は必ずしも進んでいない状況にあります。

そこで、高齢化に伴う住居での配慮事項、住宅改修前の検討すべきポイントや留意事項、事例の紹介、バリアフリー住宅改修の際に利用できる公的支援制度、相談窓口などを掲載した手引書を作成しました。

本書は、高齢者から日常的に相談を受けることが比較的多い、医療・福祉・介護関係者を主たる対象として作成したのですが、高齢者のニーズに沿いつつ、生活の改善に結びつく適切なバリアフリー改修を行うためには、建築関係者を加えた多職種 of 専門職が連携して取り組むことが望まれます。本書が高齢者の行うバリアフリー改修の支援体制の構築の一助になれば幸いです。

また、高齢者や将来に備えて改修の検討をしている方、障害のある方にも、本書を住宅改修の際の参考としていただければ幸いです。

平成25年3月

千葉県健康福祉部高齢者福祉課

* 本手引書の中で記載した住宅改善の事例等については、お住まいの高齢者の身体状況等を考慮した上で実施されたものです。住宅改善は、一人ひとりの身体状況に応じた個性が強いため、本手引書記載の事例等が全ての方に最適ではないことも考えられます。住宅改善を実施するにあたっては、医療・福祉・建築などの専門家の協力を得ながら、十分な検討をした上でお願い致します。

* また、本手引書に記載している福祉用具等のすべてが、介護・福祉サービスの対象となるものではありませんので、御留意ください。